

【エクアドル内政・外交：2013年10月】

1. 内政

(1) ヤスニITTイニシアチブ

ア 3日、国会本会議において、ヤスニ国立公園を含む第31鉱区及び第41鉱区（ヤスニITT鉱区）における石油採掘が国民の利益である旨認める決議が賛成108（与党国家同盟（AP）及び同会派）及び反対25（野党CREO他）で採択された。

イ エクアドル憲法第407条は、保護地域及び不可侵地域（ZONA INTANGIBLE）において森林伐採を含む天然資源の採掘を禁止しているが、大統領からの十分な根拠に基づく要求及び国会が国民の利益にかなうと事前に宣言することを条件とする例外規定を設けており、今般の国会の決議によりコレア大統領は、ヤスニ国立公園を含む第31鉱区及び第43鉱区（ヤスニITT鉱区）における石油採掘の法的根拠を得たことになる。

(2) カルロス・オチョア情報・コミュニケーション監督庁長官の就任

ア 15日、憲法及びコミュニケーション法の規定に基づき国会においてカルロス・オチョア氏が、情報・コミュニケーション監督庁初代長官として就任した。

イ オチョア情報・コミュニケーション監督庁長官は、1960年4月10日生まれの53歳。テレアマソナス社、TCテレビジョン社、エクアビサ社、エクアドルTV社及びガマTV社において特派員、レポータープロデューサー等を務め、マスコミ業界における経歴は28年に及ぶ。

ウ 同長官は、「法は法であり、妥協も取引もせず、義務を果たす。30年に及ぶ報道業界における経験においていいところ、悪いところ、醜いところも知り尽くしている。マスメディアと対立することなくエクアドル国民のコミュニケーションの権利を守るために働く」旨述べた。

エ コミュニケーション法第55条は、情報・コミュニケーション監督庁は、コミュニケーションメディアの監視、審査、介入、規制を担当する専門機関であり罰則を科す権限を持つ旨規定している。

(3) 地方選挙の公示

ア 17日、国家選挙審議会（CNE）は、2014年2月23日に実施される地方選挙を公示した。

イ 選挙日程

- (ア) 2013年10月17日： 選挙公示
- (イ) 2013年10月18日： 候補者登録開始
- (ウ) 2013年11月21日： 候補者登録終了
- (エ) 2014年1月7日： 選挙活動開始
- (オ) 2014年2月20日： 選挙活動終了
- (カ) 2014年2月23日： 投票日

ウ 23名の県知事及び副知事， 221名の市長， 1305名の県議会議員， 4079名の市議会議員が選出される。

エ その他

- (ア) 県知事選挙は， 県知事と副知事がパッケージとして立候補し選出される。
- (イ) 投票日前48時間及び投票日当日17時までいかなる形態であれ選挙に関する報道は禁止される。
- (ウ) 任期は2019年5月14日までである。

2. 外交

(1) コレア大統領のロシア， ベラルーシ， フランス訪問

ア コレア大統領は， 10月26日から11月9日までロシア， ベラルーシ， フランスを訪問した。同大統領には， パティエニョ外務大臣， リバデネイラ貿易大臣， ボベダ戦略部門調整大臣， エスピノサ生産・雇用・競争力調整大臣， ムニョス国家企画開発庁長官， ラミス高等教育・科学技術革新庁長官， ロセロ国際協力庁長官， ロドリゲス・ヤチャイ・プロジェクト責任者， エチェベリア・エクアドル輸出投資振興局事務局長等が同行した。

イ ロシア訪問〈10月26日～30日〉

(ア) 10月29日， コレア大統領はウラジーミル・プーチン・ロシア大統領と会談し， 貿易， 投資， 知識の分野における二国間協定を締結した。右締結は， ロシアがエクアドルの水力発電， 地熱発電において協力することが具体化されたものであり， ロシア企業がエクアドルの戦略分野への投資を容易にすることを目的とする。

(イ) コレア大統領は， エクアドル政府が人的資源及び科学・技術分野におけるロシアの経験を学び， 同国を通じてヨーロッパ諸国との関係を強化したい旨述べ， ロシアへのエクアドル人奨学生の数を増やし， エクアドルの「ヤチャイ」とロシアの「スコルコヴォ」の学術都市間の交流を実施したいと述べた。一方， プーチン・ロシア大統領は， エクアドルは中南米の中でも戦略的相手国の一つであり， 二国間関係は順調に発展していると述べた。

ウ ベラルーシ訪問〈10月31日～11月1日〉

(ア)10月31日、コリア大統領は、ベラルーシの首都ミンスクにおいて、アレクサンドル・ルカシェンコ・ベラルーシ大統領と会談し、トラクターの製造、医薬品の生産、公共輸送、送電設備及び国防など15の重要分野における協力の可能性について話し合った。会談には、リバデネイラ貿易大臣、パティーニョ外務大臣も同席した。

(イ)コリア大統領は、「昨年6月のルカシェンコ大統領のエクアドル訪問以来、ベラルーシ訪問を希望していた。(エクアドルとベラルーシの)両国が関係を構築することが可能な分野は、実りあるものであり、単なる商取引ではなくとも何かを生み出すことができるものである」旨述べた。一方、ルカシェンコ大統領は、「外交関係樹立から20年が過ぎたが、これまで双方とも二国間関係を強化してこなかった。両国には共通点が多く、経済は相互補完関係にある。両国は関係を強化し協力し合うべきである」旨述べた。

(3)また、両大統領は、近くそれぞれの大使館を相手国に開設すること及び6か月ごとに二国間関係を推進するためのハイレベル委員会を開催することで合意した。なお、数週間以内に、グラス副大統領が今般話し合われたプロジェクトを具体化するためにベラルーシを訪問する予定である。